

春のやわらかなひざしが、日一日と暖かさを増します。

壇信徒の皆さまには、お変わりございませんか。

お彼岸が

過ぎると、すぐ四月です。

四月になれば、

フレッツシユな社会人一

年生、希望に胸をふくら

ませた新入生が多勢、誕

生します。

就職



砂漠を通つてある町にたどりついた旅人が、「水が飲みたい」と言うと、町の人が「水の無い町だから、水は買うのですヨ」と言いました。

「何という町だ。」

金が無ければ水も飲めないとは。いやはやいやな町があつたもんだ」と、その旅人は怒つて、その町を出て行きました。

そのあとに来た、もう一人の旅人は、

「この町は、住みよい所だ。だって、水を売つても暮らしていけるんだから。」と言つて、この町に住んだそうです。

この話は、心の持ち方一つで、人生は楽しくも苦しくもなるということを示しています。

この世の中は、自分にとつていつも、居心地の良い所とは限りません。

苦しみや悲しみをもたらすことの方が多いといった方がいいのでしょうか。

就職——それは、人生のプロとして、社会に尽くす第一歩であります。どんな場所でも、どんな仕事でも、その人の持ち味を発揮する場所であり、働くことによつて、自分の可能性をためるのが仕事であります。

「随処に主となる」

与えられた仕事に自己を活かし、前向きの姿勢で全力を打ち込んで、明かるい人生を送つていただきたいと、三月という月、巢

立っていく若者をみていると、いつも思います。

食は一時の飢をしのぎ

財は生活の乏しさを補い

教えは永遠の迷いを救う

ガンバツて下さい。

日々を生きる

へ人生は いろいろあるからいいんじゃないや



よく人間が一生かけ

て食べる量は、決まっ

ているということを知

きます。埋葬する際、

お墓の方へ一膳飯をお

供えし、四十九日たつ

た時、お茶碗が割れる

と、その人は自分の量

を食べ切つて、無事に

成仏したなどということも、その類タゲイと思わ

れますが、私はこれと同じように、人間の一生に与えられる幸せと不幸せの量もまた、人それぞれの器というか、その人に応じて、産ぶ声をあげた時点で決定しているのではないかと思えてなりません。そしてその量も又、幸せと不幸せが、等分に均衡を保つてうると思われるのです。

事故にも「災い転じて福となす」とか「禍福はあざなえる縄のごとし」とかいうように、人間はぎりぎりのどん底へ追い込まれると必ず道は開けると思えるからです。

先日、年老いた両親をかかえた、本人自体も老年の域に入る人が両親共々、自殺したニュースを報じていました。

周囲の人達もそれなりに気を配り、いろいろな援助の手を差し伸べていたようですが、やはりそれには限界があるでしょうし、いかなる善意でも踏み入ることのできない、心や生活部分もあるわけで、自殺に至った

心情、老々介護の難しさを思うと、誠にやりきれぬ思いがしました。

このように世の中には解決し難い苦しみや悲しみ、不幸せがかくされていることを痛感することが多々あります。

仏典には「災難に遇うたなら遇うがよろしい」とあります。又、

大雄山の先の住職をしておられた余語老師は、「人生はな、いろいろあるからいいんじゃない。何も無くていい、退屈でかなわんぞ」とか「みんな何もなかと願うけれど、本当に何もなくていい、退屈でかなわんぞ。いろいろあるから、いいんじゃない」とよく言われました。

しかし我々凡人は、退屈でいいから苦のない世界、災難のない世界にいたいものだと思います。そんな思いを話したら、老師は「心配せんでも、世界の苦悩を一身に背負うなんてことは、人間にはできない。大抵

の人間は、どれ程一生懸命苦しむ気持ちになっても、所詮知れている。

『こんなことやつていても、役に立たないやめた』となるものだから、安心して苦しみなさい」と、言われるに違いありません。確かに、嘆いたり、うらんだりしても何の解決にもなりません。病氣も不幸せも日常茶飯事の一ツとして、うけとめ、前向きな生き方をするしかないのではないでしようか。

苦しみも楽しみも、人間としてこの世に生まれてきた時から二人三脚なのです。逃げることも、いやだからといって放り出すことも出来ません。

「いろいろあるから、いいんじゃない。」

「失敗してもいいんじゃない。」



このように考えることができたら、私共の人生のさまざまな出来事が、一層、味わい深いものになっていくのではないでしょうか。

人生の全ての歩みを、大事に生きさせていたいただきたいものです。

一口伝導板

○たった一言が

人の心を傷つける

たった一言が

人の心を暖める

仏の姿を拝んでも

仏の願いを聞く人は少ない

更に少ないのは

自ら願を立てて 行じる人である

○濁り江に 人を身をも沈めじと

助け合うこそ 清き世渡り

○お寺からのお願い

近頃、墓地の外柵工事やら墓所内に小石を入れるなどの工事をなさる方がいらつしやいます。御先祖様の眠る墓所を整備なさる御気持ちに頭が下がる思いがしますもの、一応、お墓をいじる際には、墓地を管理しておりますお寺の方へ、言葉かけをお願いいたします。

いろいろな業者が入り、歩き部分や隣接地の墓地を傷つけたりと、その修復工事のことで、あちこちのお寺様が難儀されている活しを、お寺の会合の折ききます。

(指定業者に、お墓をお任せした由縁であります)

御協力の程、お願い申し上げます。

○お誘い

少し先のこととなりますが、七月十三日、八月十三日、本年もお盆の精霊お迎えの法

要（棚経の代わりとなる法要です）を予定しています。住職の先住地であり、玉宝寺の梅花講の皆さんが、総世寺の法要を少しでも賑やかなものにしたいの住職のお考えを受けて、御詠歌を御仏前に奉納して下さっています。

総世寺でも今まで、梅花講が存在しており、斉藤和子寺族様が体調不良となつて休講状態となつた後、講員さん達はアチコチのお寺様に入講替えをなさつたようです。今の所、総世寺独自の御詠歌講の活動は無理な面も多々ありますが、お盆のこの日だけでも、自分達の御先祖様には是非、ご詠歌をおあげしたいとお考えの方は、当日、御法具を御持参下さい。

玉宝寺講の講員さん達と声を合わせ、仲良く御一緒にお唱えなさいませんか？

お誘い申し上げます。

○草庵の井戸の整備

その昔、開山禅師は、楊枝を挿した所、枝葉が生じたのを御覧になつて、今の地に阿育王山・総世寺を建立されました。

井戸は、今もつて満々と水をたたえておりますが、放置しておいては危険であると共に、崩れたり。埋まつてしまうことを恐れ、井戸に石積みをし、その周囲を安全なように蓋をして、この地に井戸があつたことを、後世の人に伝える工事がおわかりました。



